



# ある日の出来事

近年の社会経済情勢の急激な変化の中では、子どもを取り巻く環境は厳しく、いじめや不登校などの問題をはじめ、児童虐待事件も後をたちません。今回は、子ども達と一緒に活動をする中で、市の職員が実際に体験したことを紹介します。

私が、小学校の児童の保護者が仕事などで放課後家庭にいない間、児童が勉強や遊びなどをする施設で働き始めて2週間程経ったある日のことです。子ども達は、ビーズ玉でアクセサリー作りをしました。

出来上がった子ども達の作品を見て、「〇〇さん、家に持って帰ってお母さんかお父さんにプレゼントしてあげてもいいね」と話しかけると〇〇さんは、すぐさま「お父さんは、いないもん」ときっぱり答えました。

私は、「ごめん、余計なことを言ってしまったね」と言葉を返すのが精一杯でした。

その時、私は、物心がつく頃から、年に1回程しか帰ってこない父の事を思い出しました。のちに両親は、離婚しました。

私は、そのことで、時々近所の人々から、「お父さんがいなくて寂しくない」と話しかけられ答えに困ったことがあります。

私のひと言がきっと〇〇さんの心を傷つけてしまったことを後悔しました。また、私の体験に比べて、はるかにたくましい〇〇さんの態度に心を打たれました。

「私に出来ることは何か」自分自身に問いかけながら、今日も子ども達が施設に来るのを心待ちにしています。

みなさんなら〇〇さんにどんな言葉を返してあげますか。

子どもの人権問題が発生する中、子どもがひとりの人間として最大限に尊重されるよう関心と理解を深めていくことが求められています。

